

ECT 施行マニュアル作成の手引き

日本総合病院精神医学会電気けいれん療法委員会では、ECT 研修施設に対して日本精神神経学会の推奨事項改訂版（精神神経学雑誌 115（6）：586-600, 2013）に準拠した ECT 施行マニュアルの作成、運用を求めています。推奨事項の内容に沿って具体的に示した手引きを作成しましたので、ご活用いただければ幸いです。

1. 急性期 ECT の適応基準が、疾患や状況、高度の危険性を伴う病態などを含め、適切に記載されているか
2. 急性期 ECT の適応の決定過程が定められているか（カンファランスなど）
3. 術前に行うべき検査項目は適切に記載されているか
4. 患者、家族への説明と同意の内容および同意説明文書は適切か（説明すべき事項を参照）
5. 術前に中止すべき服用薬剤について適切に記載されているか
6. 特にベンゾジアゼピン受容体作動薬、抗てんかん薬の中止（術前数日以上前が望ましい）の検討について適切に記載されているか
7. 施行手順、使用薬剤などについて適切に記載されているか（麻酔薬、筋弛緩薬等を含む）
8. 施行回数、施行間隔について適切に記載されているか
9. 初回の刺激用量設定（両側・片側の記載含む）について適切に記載されているか
10. 2回目以降の刺激用量設定（前回は不十分な発作なら 1.5 倍増量）について適切に記載されているか
11. 初回、2回目以降とも発作不発時の対処（2倍に増量して再刺激）について適切に記載されているか
12. （毎回の）発作の有効性の判断基準は適切に記載されているか
13. 発作後の副作用への注意とその対処法について適切に記載されているか
14. 放置できない副作用が出現した時の対応（施行間隔を空ける、両側から片側への変更、中断または中止など）、緊急時の対応（備品等含む）について適切

に記載されているか

15. 100%の刺激でも発作不発時の対応と、検討し得る発作増強法について適切に記載されているか（remifentanil 併用を含めた麻酔薬の調整、ベンゾジアゼピン受容体作動薬や抗てんかん薬使用の確認など）
16. 急性期 ECT の終了基準（目安）は適切に記載されているか
17. 継続・維持 ECT の適応基準は適切に記載されているか

インフォームド・コンセントの手続きの際に説明すべき事項

- ①ECT が推奨される理由
- ②他の適応となる治療法
- ③治療手順
- ④ECT の有効性が必ずしも保障されているわけではないこと
- ⑤何らかの継続的治療が必要であること
- ⑥ECT に随伴する副作用の頻度や重症度：死亡，心肺機能の障害，せん妄，認知障害，頭痛，筋・骨格系の痛み
- ⑦患者が十分覚醒していない時期に必要となりうる緊急処置
- ⑧ECT 施行前，施行中，施行後に必要となることが予想される行動制限
- ⑨推奨される治療法に関する質問について，いつでも回答を提供すること。
また，こうした質問に対応するスタッフの氏名
- ⑩ECT に関する同意は強制されないこと，いつでも撤回できること

日本総合病院精神医学会
電気けいれん療法委員会